

870 升本重夫君来信

〔『法学新報』第35卷11(406)号 大正14年11月1日〕

○升本重夫君来信 独逸留学中の升本重夫君より佐藤中央大学
理事宛の近信左の如し

其後は堪えて御無音益々校務御多端の御事と存候

光陰矢の如く過去つて小生滞独既に一年半にも近からんとし
柴田中村須磨君等昨夏帰朝せられ今春又天野君を送り先日片
山君を新に迎ふるの間小生は唯静かなる而かも変化に乏しき
郊外生活を続け申候処今度実務方面をも少しく取調度と存し
伯林市の真中なる後記の場所に引移り申候

小生着独以来際立つて目に立つものは市況の恐ろしく活気を
呈し来りたる事に御座候交通状況の如き一年前のそれとは実
に雲泥の相違に有之候住宅難も次第に其度を増し新住宅の郊
外に建築せらるゝもの日々其数を増加し居り候先は御無沙汰
御詫旁々移転御通知迄如斯御座候

九月四日
伯林にて

升本重夫